

小石丸の飼育・生糸繰製・製織製品化技術

福島県蚕業試験場 養蚕部
平成13年 蚕業試験場年報
分類コード 09-04-34000000

部門名 蚕糸－絹糸－加工
担当者 瓜田章二・名倉明夫

I 新技術の解説

1 要旨

福島絹ブランドを目指し、蚕品種「小石丸」の飼育における稚蚕人工飼料育、壮蚕桑葉育、生糸繰製における繭乾燥、煮繭、繰糸、揚返し技術および製織における加工機織り技術開発による製品化一貫体系を確立した。

- (1) 従来の原蚕種用稚蚕期標準飼育体系の小石丸への適用では、蚕児の発育経過が不斉になり、作業が計画的に進行しない等の支障を来すため、小石丸に適應する給餌量、蚕座面積および経過日数等の1～3齡期人工飼料育技術を確立した。
- (2) 1～3齡期人工飼料飼育小石丸に適應する壮蚕4～5齡期桑葉飼育技術を確立した。
- (3) 従来の毛羽取り機では上繭割合が低下することから、乾繭用毛羽取り機を用いた小石丸蚕児・繭に適應する上簇・収繭技術を開発した。
- (4) 小石丸絹特性を最大限引き出し、かつ生糸を大量繰製するための一連の製糸工程技術の確立と加工機織(経・緯糸使用)の製織技術を開発した。

2 期待される効果

- (1) 小石丸は従来の繭とは異なり、その絹糸は優れた力学特性や豊かな風合いを持ち、このため付加価値の高い絹素材となる可能性が大きい。
- (2) 1～3齡人工飼料育の適用により、飼育労力の削減や蚕作安定等が期待できる。さらに、桑葉育へ移行後、従来の品種と比較して、給桑量、蚕座面積が削減可能であり、その期間も短縮することから、計画的に蚕児の飼育取扱いができる。
- (3) 小石丸の飼育から始まり生糸の繰製、機織製品化まで一連の技術で福島の絹ブランドになり得る。

3 適用範囲

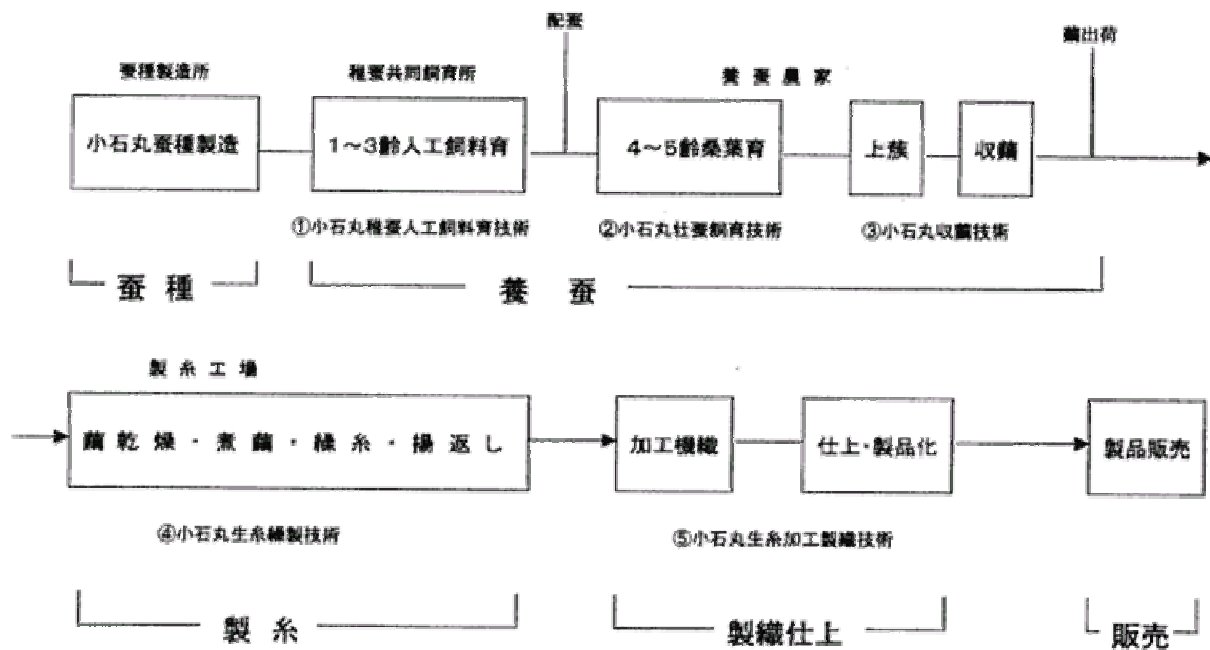
福島絹ブランドを目指す小石丸飼育農家、製糸工場、機織り業者。

4 普及上の留意点

従来の蚕・繭と比べて繭重が軽い等、量的形質に差があるため、その取扱いには、小石丸のみ適用の技術認識、さらに繭については特約取引が必要と思われる。

II 具体的データ等

小石丸の飼育・生糸繰製・製織製品化技術



Ⅲ その他

1 執筆者

瓜田章二

2 その他参考となる資料等

製糸絹研究会誌(2000)

日本シルク学会研究発表収録(2001)